# ザンビア事務所活動報告（後編）

結核予防会国際部
計画課長　後藤 眞喜子
結核予防会ザンビア事務所
現地代表　松岡 裕子、プロジェクトコーディネーター　天野 さとみ

## 現在の活動

2023年3月29日より，外務省NGO無償資金協力及び複十字シール募金より支援を受けた新プロジェクト「ルサカ郡における結核診断技術の向上を通じた結核対策プロジェクト」を開始しました。また，過去のプロジェクトの検証・評価事業も実施し，これまでの活動成果が継続していることが確認できました。

**(1)「チョングウェ郡の結核対策プロジェクト評価事業」**

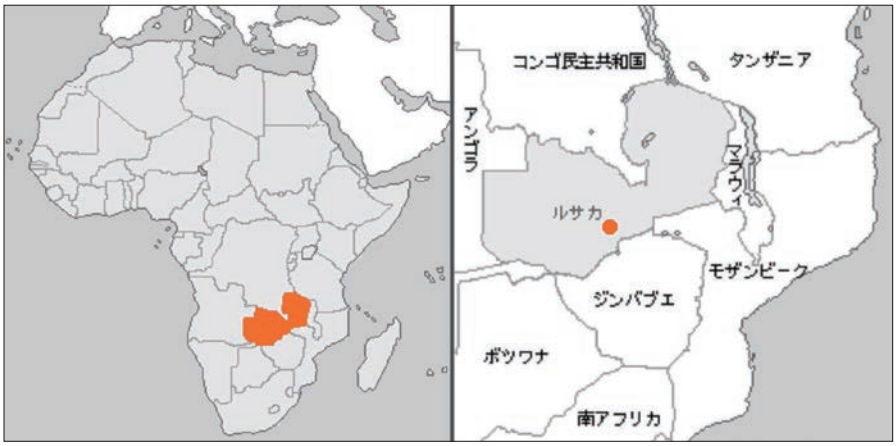
外務省NGO補助金の助成を受け，過去（2015年～2018年）に実施したプロジェクトの評価を行いました。初めての試みですが，これまでに実施したプロジェクトがどのように継続されているか，その効果がどのように波及しているのかを検証しました。保健ボランティアや関係者68名に聞き取り調査を行い，私たちのプロジェクトで育成したボランティア48名のうち，21名がプロジェクト終了後も継続して活動していること，新たに6名が育成されたことが確認できました。他方で経済的な問題から離職するボランティアも多く，モチベーション維持が課題となっています。

**(2) 新プロジェクト「ルサカ郡における結核診断技術の向上を通じた結核対策プロジェクト」**

2023年3月29日から外務省NGO無償資金協力及び複十字シール募金より支援を受けた新プロジェクトを開始しました。3月9日に在ザンビア日本国大使館にて署名式を行いました。今回のプロジェクトでは，古くなり使われなくなったX線室を改修し，新しい日本製のX線機材を入れ，専門家やAIによる画像診断をメインにさらにザンビアの結核対策を推進していく所存です。

新プロジェクトの署名式（在ザンビア日本国大使館にて）
写真左）左から竹内大使，天野（筆者）
写真右）左から２番目がルサカ市長，その右隣から順番に難民を助ける会（AAR）秋本氏，竹内大使，天野，ザンビア内務省職員，同国保健省医官

## ザンビア共和国の紹介




外務省 HP より

**時差**

時差は７時間。日本の午後３時にザンビア事務所の始業です。日本のスタッフとザンビアのスタッフが意思疎通をよく図り物事を進める必要がありますから，効率よく早めに連絡を取り合うこと，情報共有を徹底すること，スカイプや Zoom などですぐに連絡を取れる状況にしておくことなど，工夫しています。
プロジェクトのオンライン研修でも時差は大きな課題で，新プロジェクトでは対面研修が実施できることを祈っています。

**距離**

とても遠いので乗り換えを入れて約 24 時間かかります。新型コロナウイルス感染症流行時には外務省より一時帰国が強く推奨されたため，駐在員は帰国を検討しましたが，運航しているフライトが日々少なくなり不安でした。ザンビア駐在者は他の NGO スタッフなどと一緒に子連れで長距離を移動して何とか帰国しました。

## 現地事務所の紹介

ザンビア事務所の入り口

写真中）前列左からポール，トレッサ，アイザック，ムレンガ 後列左から松岡（筆者），ダカ，デイビット，天野，ジョセフ
写真右）ムレンガの送別会（花束を持っているのがムレンガ）

２名の駐在員と７名の職員が上記の活動を支えています。
ダ　　カ：結核コーディネーター。冷静で物腰も柔らかいですが，言うときはビシッと言える人。
デイビッド：フィールドコーディネーター。コミュニティ活動から政策作りまでも関わる実力者。（でも日本人の前ではツンツンしている。）
ポ ー ル：事務 / 会計，イベントの司会進行がとっても上手。
アイザック：フィールドアシスタント。いつもニコニコ笑顔で迎えてくれます。
ムレンガ：ドライバー。長年事務所に勤務していただき今年定年に。みんなで退職をお祝いしました。
ジョセフ：ドライバー。家族思い，奥さんには頭が上がらない様子。
トレッサ：事務所アシスタント。彼女のつくるザンビアの主食，シマは絶品。最近では栄養学を学んでいます。